

西宮市の将来人口 推計

第5次西宮市総合計画 検討資料

平成30年9月

政策局 政策総括室 政策推進課

はじめに

第5次西宮市総合計画を検討するにあたり、本市の将来人口推計を行いました。

将来人口は、総合計画をはじめ、本市の様々な施策や施設計画の基礎資料として用いられる重要な指標です。全国的に人口減少が進展し、本市においても、今後人口が減少していくことが予測されています。

本推計では、平成27年を基準年として平成57年（2045年）までの30年間の将来人口の推計値を5年ごとに算出しました。また、全市及び地域別に推計を行い、地域ごとの人口や年齢階層ごとの人口推移を確認しました。

目 次

1. 近年の人口推移	1
2. 将来人口推計結果	4
3. 推計方法	7
4. 推計結果の詳細	8
5. 分析・考察	16

1. 近年の人口推移

(1) 人口推移

平成元年以降の人口の推移を図1及び表1に示しています。

平成6年まで本市の人口は425,000人前後で推移していましたが、平成7年の阪神・淡路大震災により390,000人まで減少しました。その後、震災復興と共に人口は回復し、平成12年には震災前人口を上回り、平成20年頃まで急激に増加し、それ以降、平成28年まで微増傾向が続いていましたが、平成29年は減少に転じました。

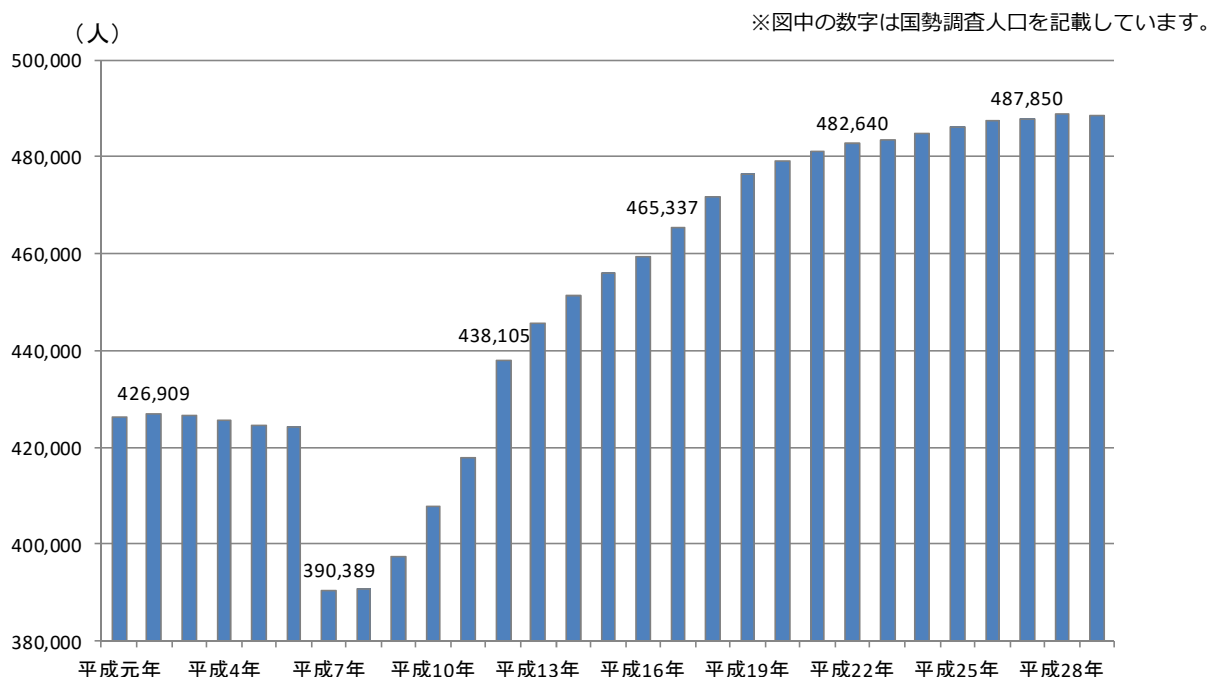


図1 人口の推移

出典：西宮市統計書

表1 人口の推移

単位：人

平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年
426,129	426,909	426,711	425,711	424,719	424,328	390,389	390,792
平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
397,618	407,687	417,751	438,105	445,658	451,163	456,037	459,448
平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
465,337	471,572	476,315	479,038	480,980	482,640	483,598	484,702
平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年			
486,071	487,409	487,850	488,874	488,399			

※表中の数字は国勢調査人口及び各年10月1日現在の推計人口を記載しています。

出典：西宮市統計書

(2) 人口動態の推移 (社会動態推移)

平成元年以降の転入数・転出数による人口動態の推移を図2及び表2に示しています。

平成3年以降、平成6年まで年間2,000人程度の転出超過となっている状況が続いていましたが、阪神・淡路大震災が発生した平成7年は20,000人近く転出超過となりました。しかしながら、震災翌年の平成8年から転入超過に転じ、平成9年から平成19年まで年間2,000人以上の転入超過となりました。平成20年から平成28年までは、転入数・転出数が同程度に推移しており、若干の転入超過が続いていましたが、平成29年は転出超過となりました。

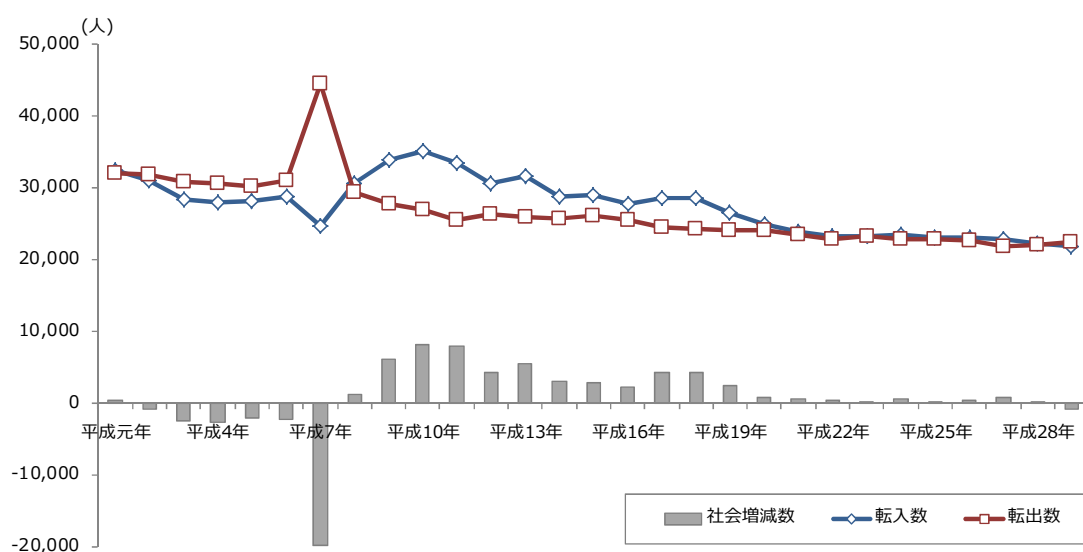


図2 人口動態の推移 (社会動態)

表2 人口動態の推移 (社会動態)

単位：人

	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年
転入数	32,420	31,105	28,424	28,061	28,120	28,878	24,792	30,588
転出数	32,067	31,887	30,936	30,733	30,258	31,051	44,657	29,388
社会増減数	353	-782	-2,512	-2,672	-2,138	-2,173	-19,865	1,200

	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
転入数	34,010	35,173	33,623	30,678	31,614	28,782	28,963	27,725
転出数	27,832	27,010	25,582	26,396	26,061	25,794	26,173	25,479
社会増減数	6,178	8,163	8,041	4,282	5,553	2,988	2,790	2,246

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
転入数	28,683	28,666	26,615	24,883	23,979	23,370	23,369	23,474
転出数	24,471	24,347	24,148	24,140	23,432	22,983	23,234	22,835
社会増減数	4,212	4,319	2,467	743	547	387	135	639

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
転入数	23,192	23,056	22,820	22,271	21,818
転出数	22,910	22,706	21,945	21,979	22,540
社会増減数	282	350	875	292	-722

※表中の数字は住民基本台帳法、外国人登録法(平成24年7月9日廃止)、戸籍法に基づく届出及び記載の数字です。

出典：西宮市統計書

(3) 人口動態の推移（自然動態推移）

平成元年以降の出生数・死亡数による人口動態の推移を図3及び表3に示しています。

阪神・淡路大震災が発生した平成7年は死亡数が出生数を上回りましたが、その年以外には、出生数が死亡数を上回っています。特に、社会増がピークとなった平成10年以降は、出生数が毎年4,500人前後で推移していましたが、平成29年は4,100人程度まで減少しました。

一方、死亡数については、阪神淡路大震災が発生した平成7年を除けば増加傾向で推移していることから、自然増が減少傾向となっています。

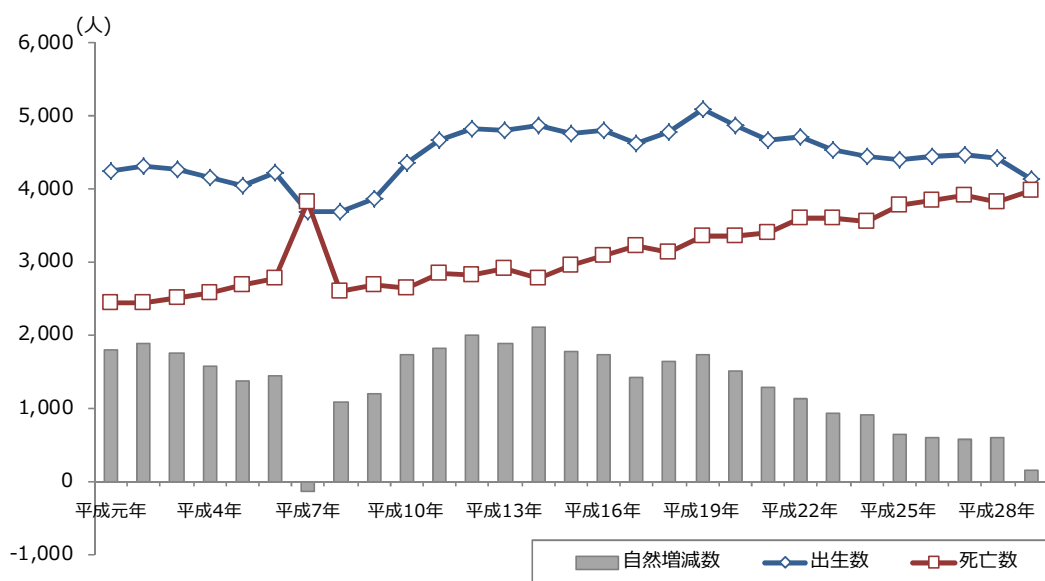


図3 人口動態の推移（自然動態）

表3 人口動態の推移（自然動態）

単位：人

	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年
出生数	4,241	4,320	4,261	4,149	4,046	4,222	3,694	3,683
死亡数	2,434	2,445	2,509	2,584	2,681	2,782	3,833	2,596
自然増減数	1,807	1,875	1,752	1,565	1,365	1,440	-139	1,087

	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
出生数	3,873	4,368	4,660	4,820	4,797	4,880	4,751	4,806
死亡数	2,679	2,639	2,839	2,832	2,912	2,780	2,966	3,079
自然増減数	1,194	1,729	1,821	1,988	1,885	2,100	1,785	1,727

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
出生数	4,630	4,781	5,084	4,871	4,673	4,718	4,527	4,452
死亡数	3,215	3,137	3,359	3,360	3,395	3,594	3,606	3,552
自然増減数	1,415	1,644	1,725	1,511	1,278	1,124	921	900

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
出生数	4,413	4,443	4,471	4,427	4,143
死亡数	3,780	3,838	3,909	3,823	3,984
自然増減数	633	605	562	604	159

※表中の数字は住民基本台帳法、外国人登録法（平成24年7月9日廃止）、戸籍法に基づく届出及び記載の数字です。

出典：西宮市統計書

2. 将来人口推計結果

本市の将来人口推計の結果を図4に示しています。

平成32年(2020年)までほぼ横ばいで推移しますが、それ以降人口は減少し、第5次総合計画の目標年次である平成40年(2028年)時点では478,624人【参考値】となっています。

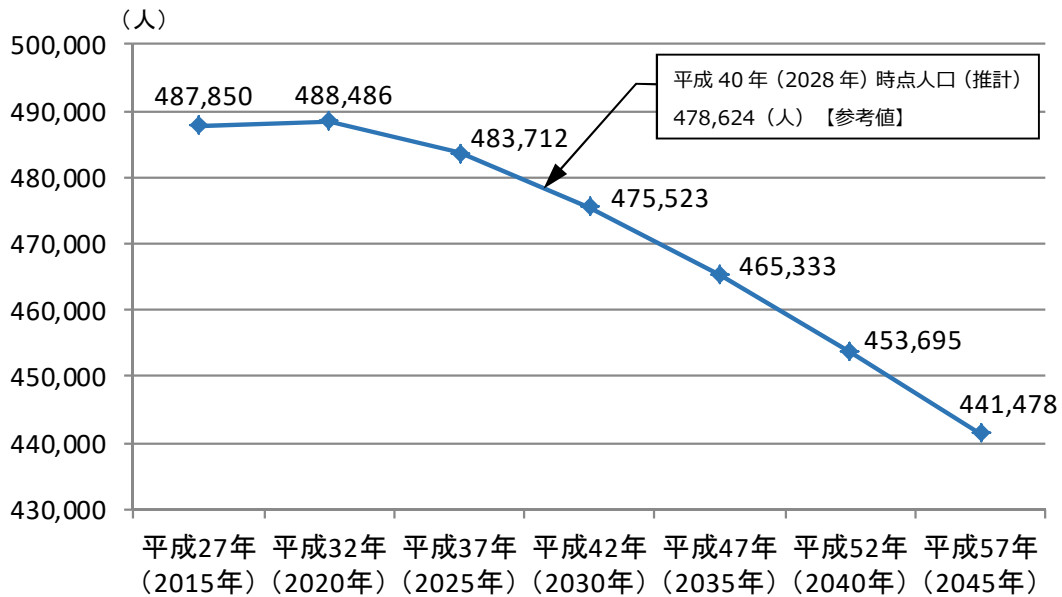


図4 本市の将来人口推計

また、地域別の将来人口推計を図5に示しています。各地域によって増加、減少傾向が異なっています。次頁以降に地域別の推計結果を示しています。

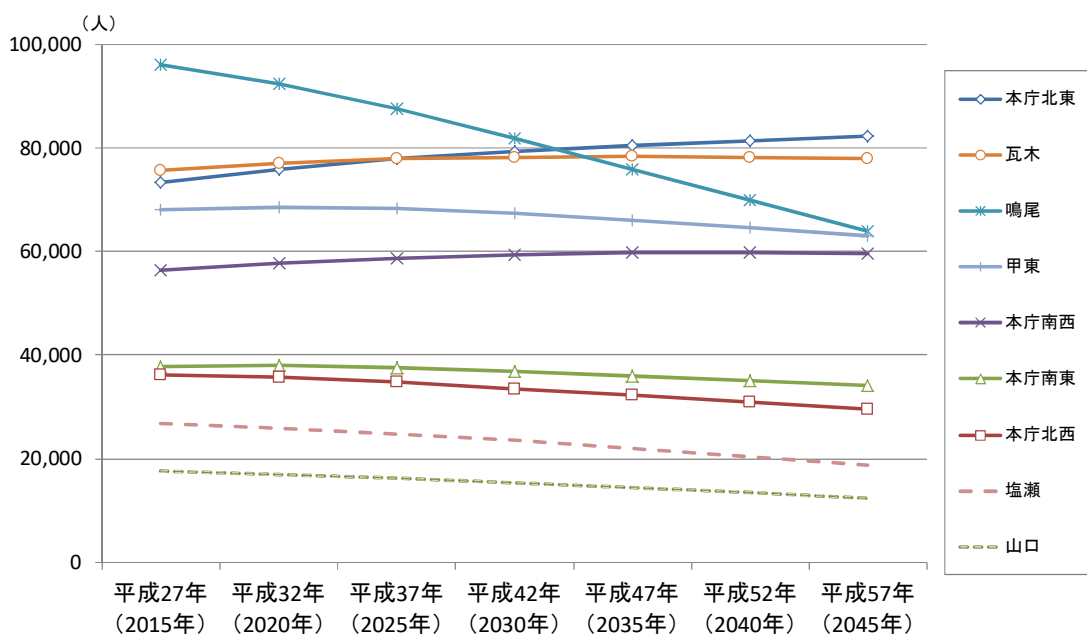


図5 地域別の将来人口推計

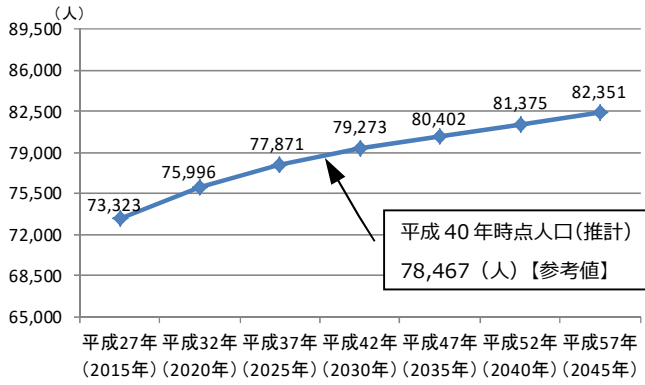


図6 本庁北東地域の将来人口推計

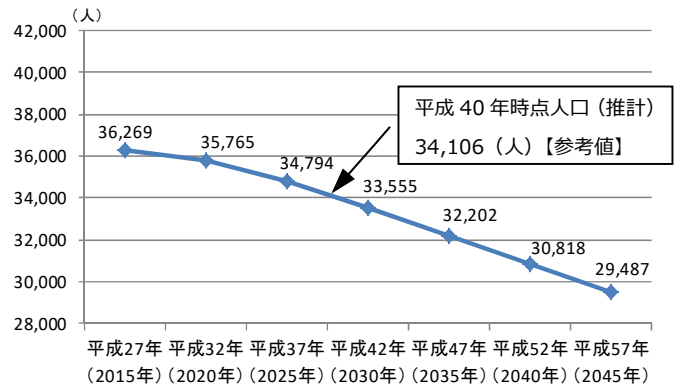


図7 本庁北西地域の将来人口推計

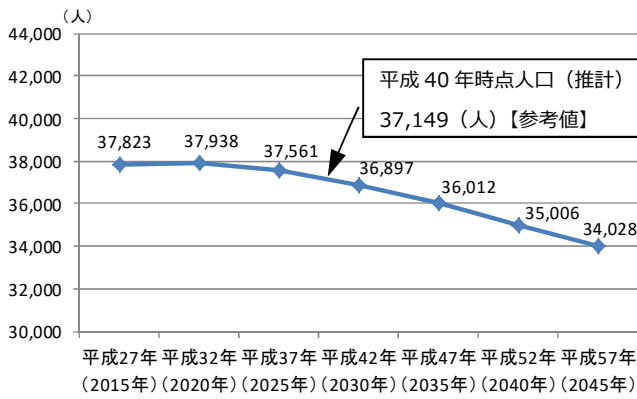


図8 本庁南東地域の将来人口推計

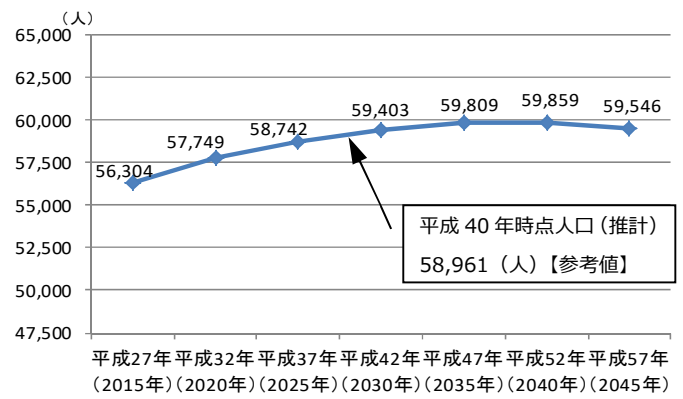


図9 本庁南西地域の将来人口推計

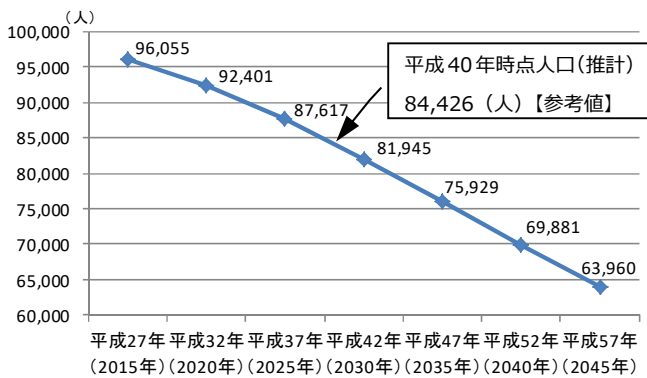


図10 鳴尾地域の将来人口推計

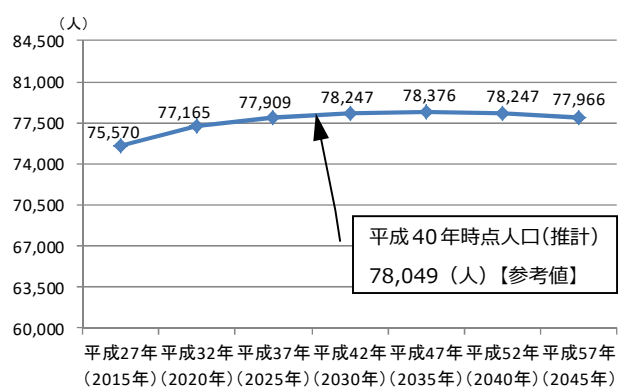


図11 瓦木地域の将来人口推計

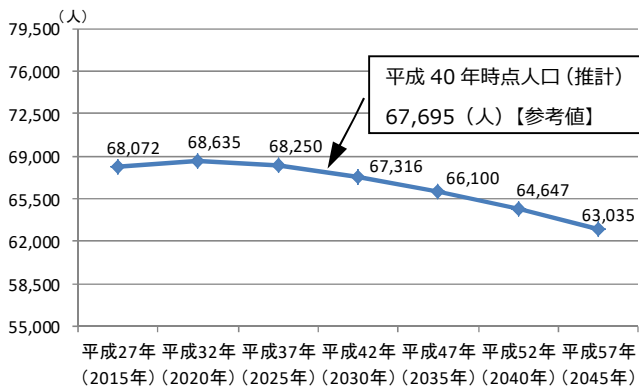


図 12 甲東地域の将来人口推計

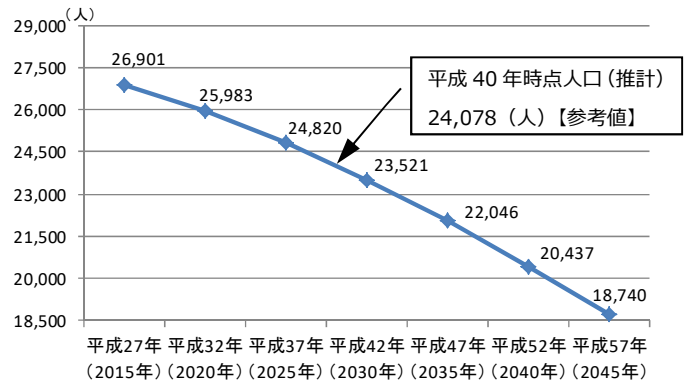


図 13 塩瀬地域の将来人口推計

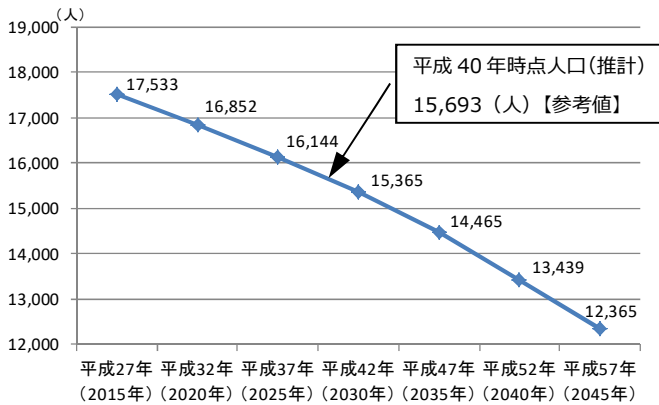
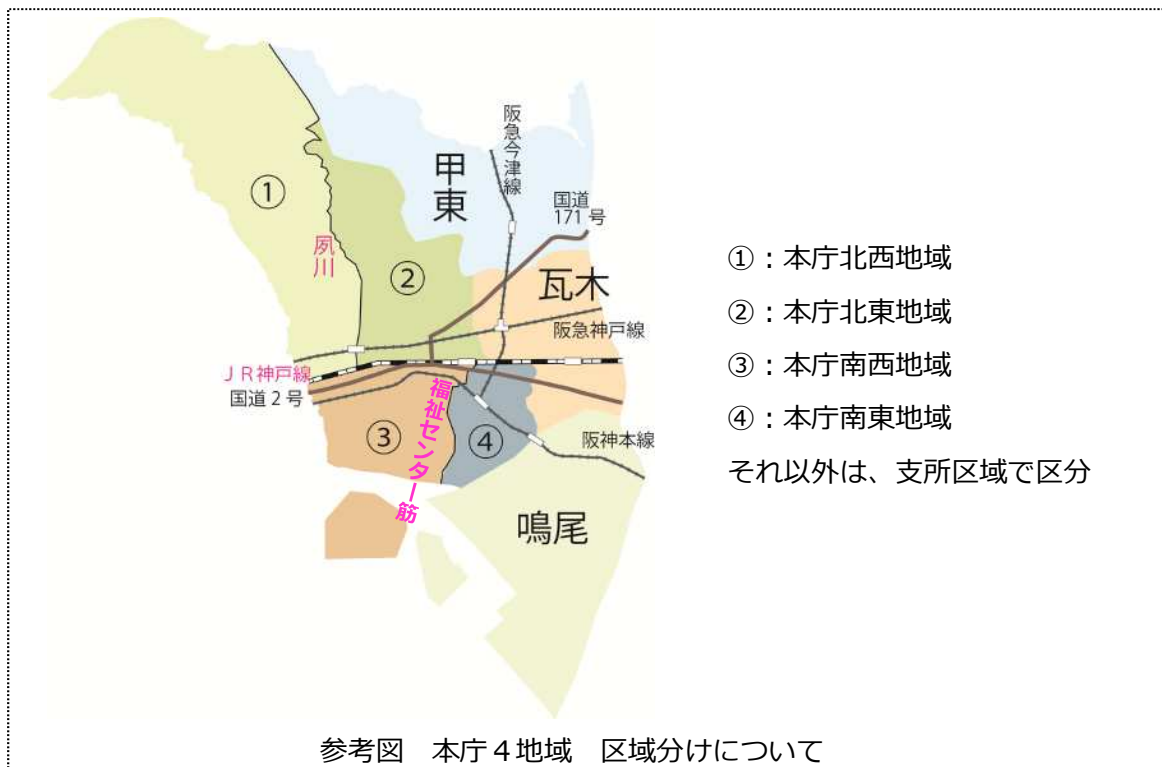


図 14 山口地域の将来人口推計

注) 図 6～図 14 の各グラフの縦軸は、各地域の増減の比率をベースにして設定しています。



3. 推計方法

(1) 推計手法

長期の人口推計を行うにあたり、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計手法（コーホート要因法）に準拠しました。

コーホートとは、同期間に出生した集団のことをいい、本推計では男女別に5年5歳区分で構成しています。また、コーホート要因法とは、出生・死亡・移動等の人口の変動要因に基づいてコーホートごとに将来人口を推計する手法です。

(2) 推計の基本データ

ア 基準人口

国勢調査による平成27年10月1日現在、市区町村別、男女・年齢（5歳階級）別人口（外国人を含む）です。

イ 子ども女性比

特定時期の0～4歳の人口を同時期の15～49歳の女性人口で除した値。

ウ 0-4歳性比

特定時期の0～4歳女性人口100人あたりの0～4歳男性人口。

エ 生残率

特定時期の各コーホートの人口が、5年後に生き残っている率。

オ 純移動率

特定時期の各コーホートのその後5年間の転入超過数を各コーホートの人口で除した値。

カ 純移動率の補正

大規模な住宅開発などによる過剰な転入増加の影響を軽減するため純移動率の上限を設けて補正。

(3) 推計算出式

ア 5歳以上の男女・年齢別人口の推計

$$(x+5 \text{ 年の男女・年齢別人口}) = x \text{ 年の男女・年齢別人口} \times (\text{生残率} + \text{純移動率})$$

イ 0-4歳男女別人口の推計

$$0-4 \text{ 歳人口} = 15\sim 49 \text{ 歳女性人口} \times \text{子ども女性比}$$

4. 推計結果の詳細

(1) 男女別

ア 全市

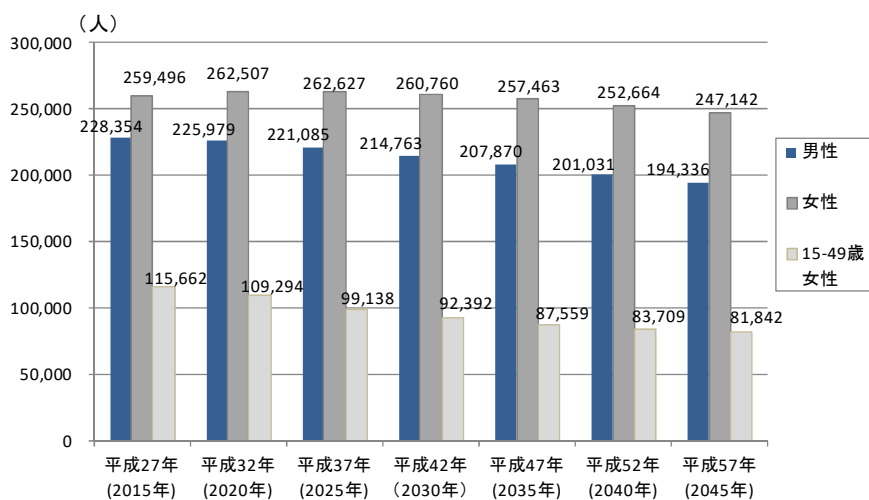


図 15 将来人口推計における男女別構成（全市）

イ 地域別

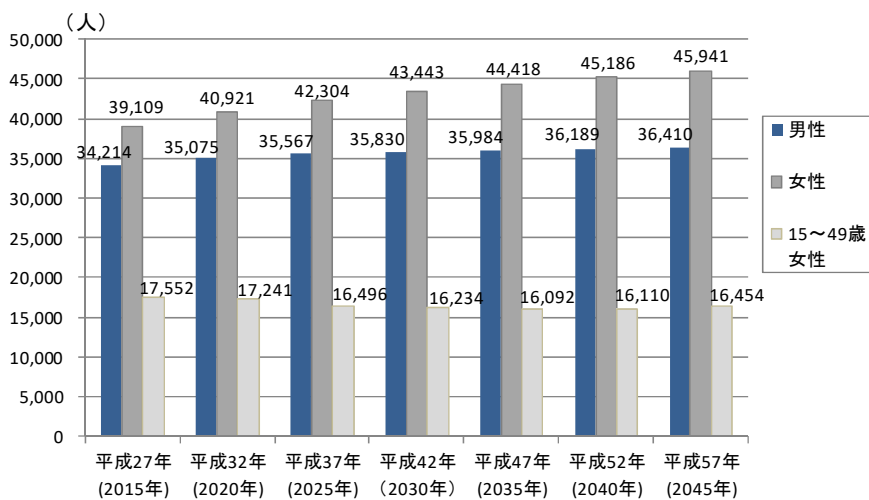


図 16 将来人口推計における男女別構成（本庁北東）

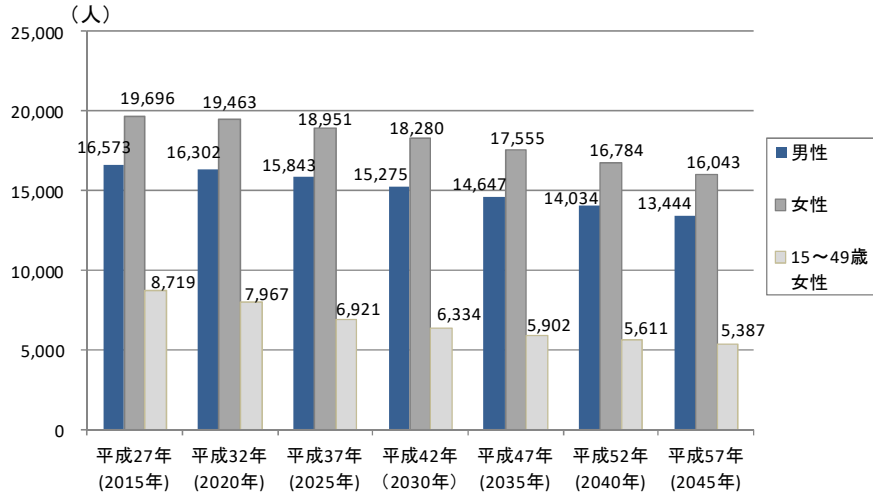


図 17 将来人口推計における男女別構成 (本庁北西)

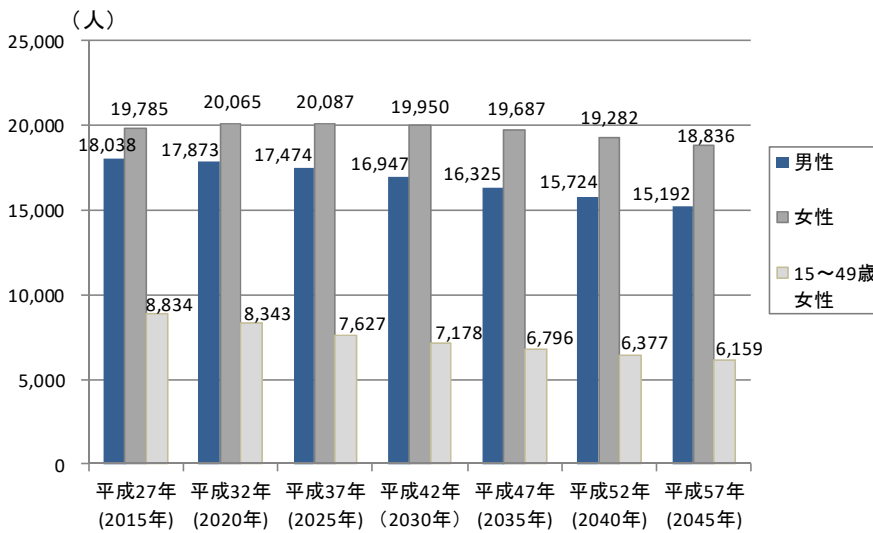


図 18 将来人口推計における男女別構成 (本庁南東)

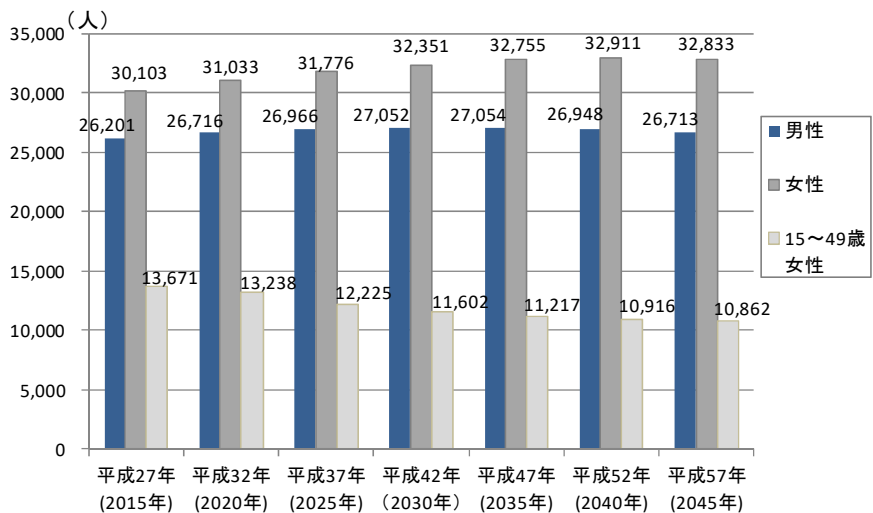


図 19 将来人口推計における男女別構成 (本庁南西)

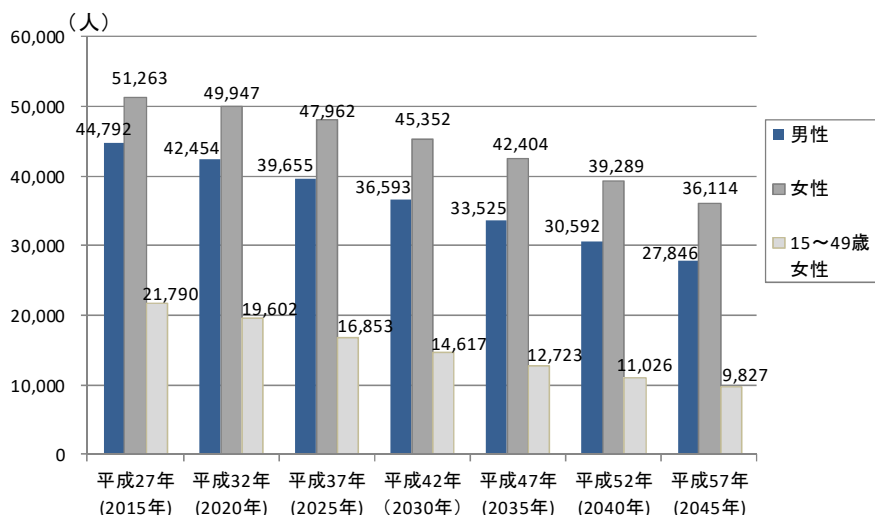


図 20 将来人口推計における男女別構成 (鳴尾)

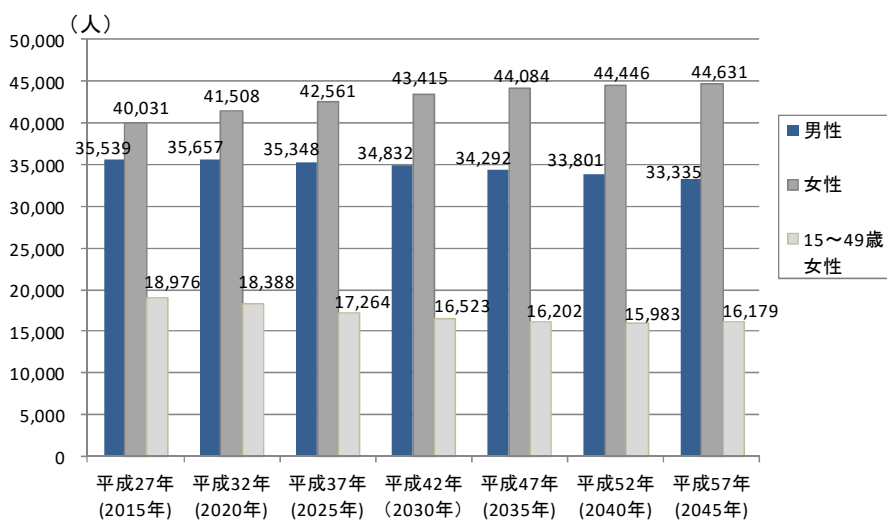


図 21 将来人口推計における男女別構成 (瓦木)

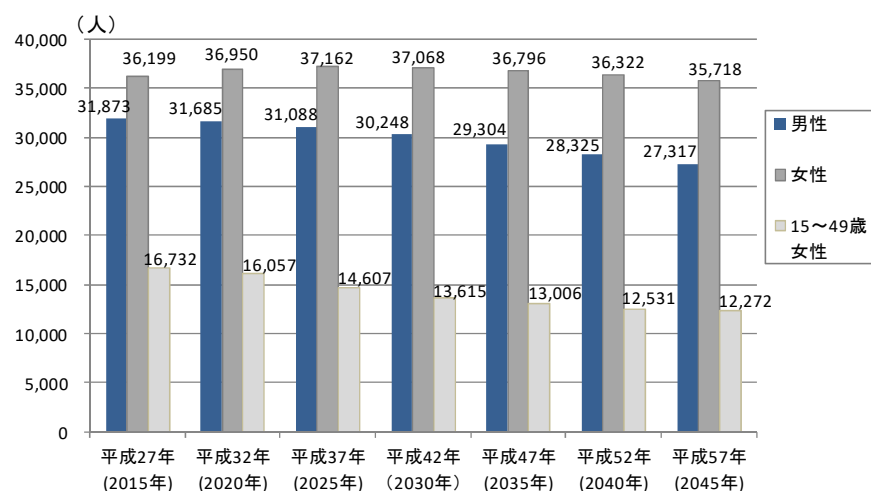


図 22 将来人口推計における男女別構成 (甲東)

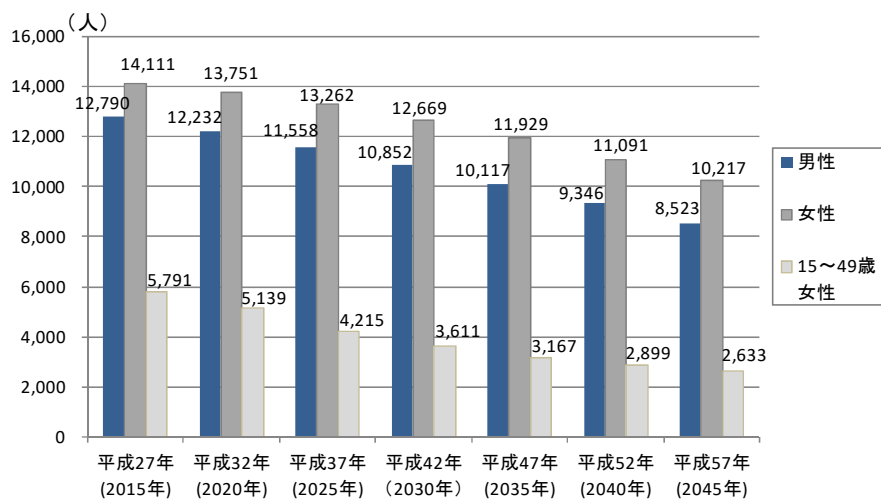


図 23 将来人口推計における男女別構成 (塩瀬)

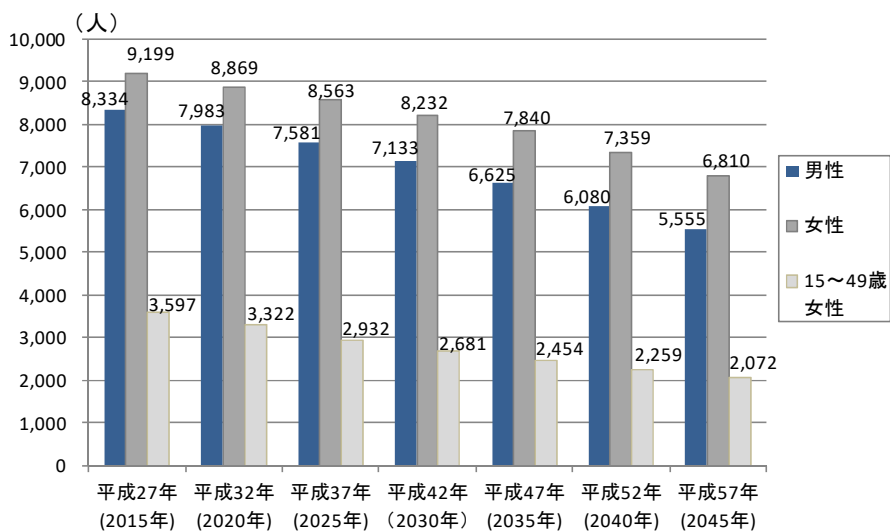


図 24 将来人口推計における男女別構成 (山口)

(2) 年齢階層別

ア 全市

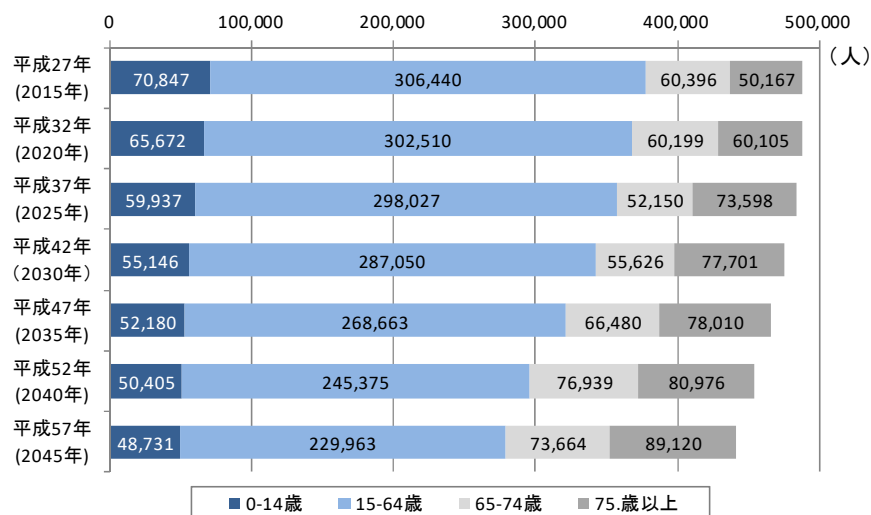


図 25 将来推計人口における年齢別構成 (全市)

イ 地域別

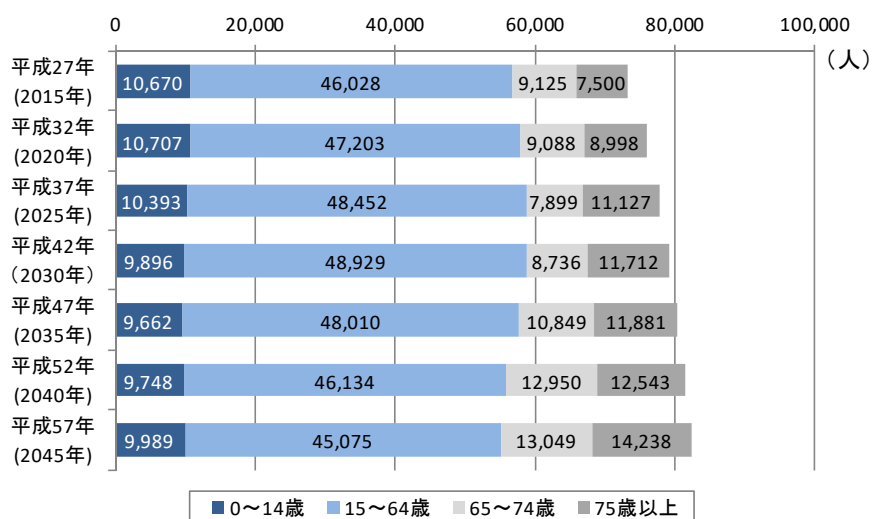


図 26 将来推計人口における年齢別構成 (本庁北東)

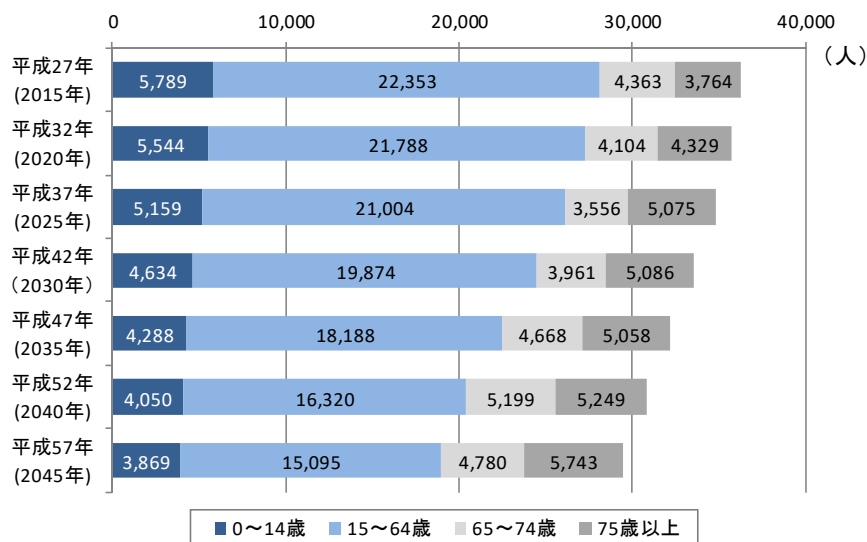


図 27 将来推計人口における年齢別構成（本庁北西）

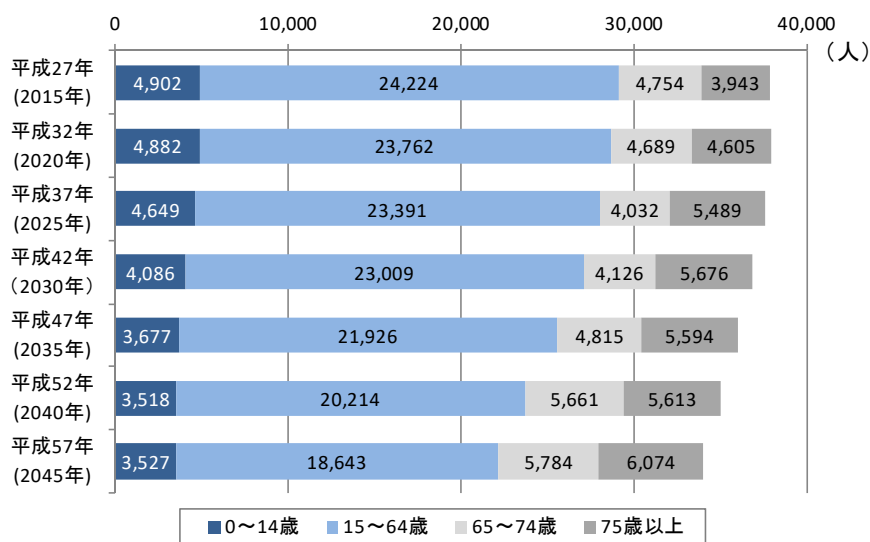


図 28 将来推計人口における年齢別構成（本庁南東）

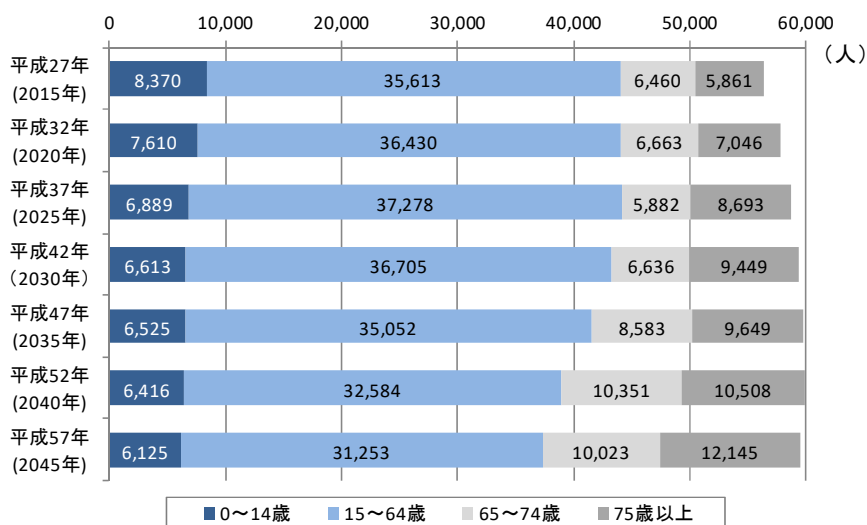


図 29 将来推計人口における年齢別構成（本庁南西）

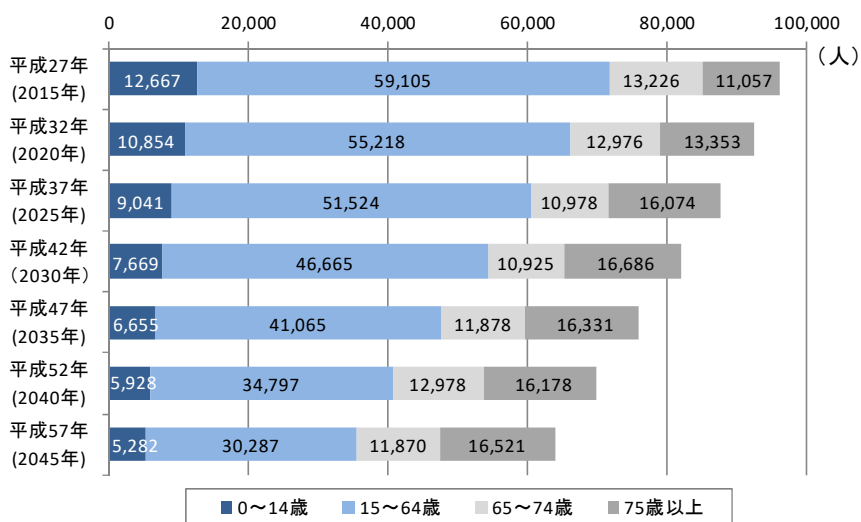


図 30 将来推計人口における年齢別構成（鳴尾）

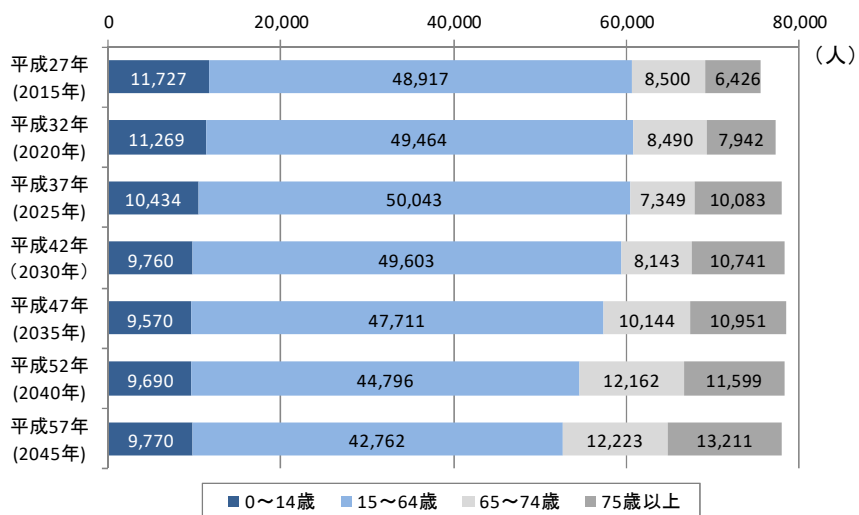


図 31 将来推計人口における年齢別構成（瓦木）

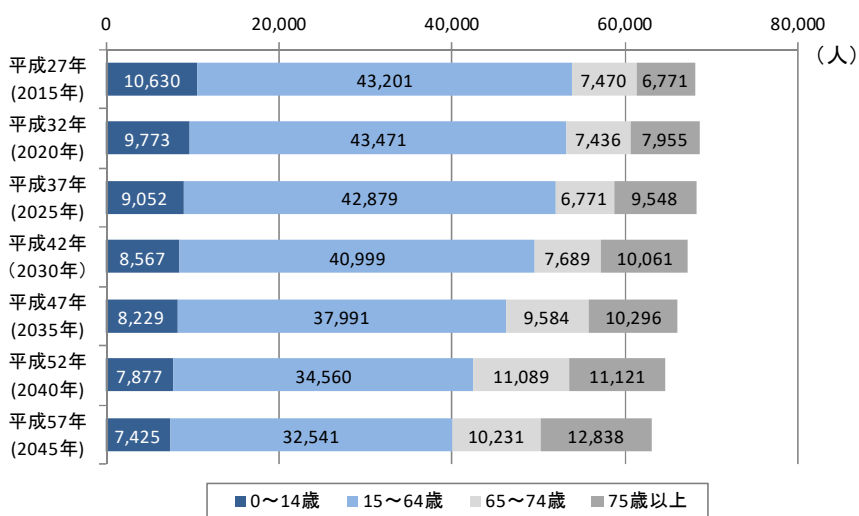


図 32 将来推計人口における年齢別構成（甲東）

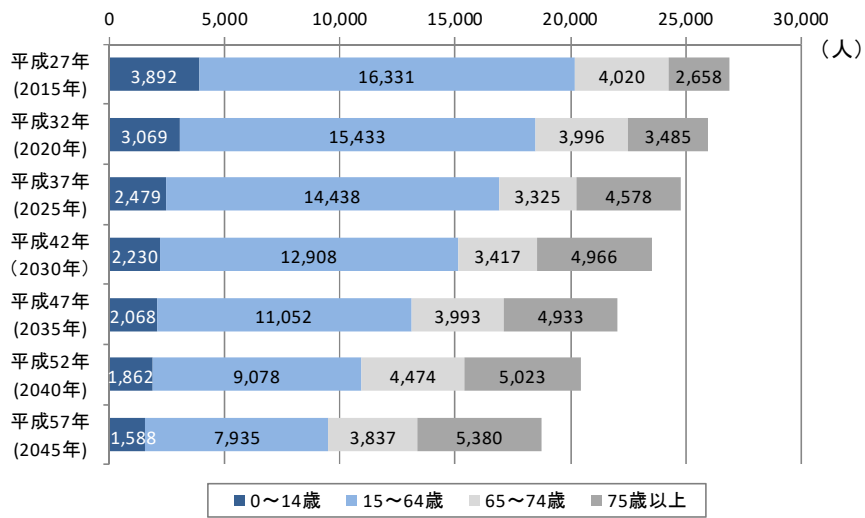


図 33 将来推計人口における年齢別構成（塩瀬）

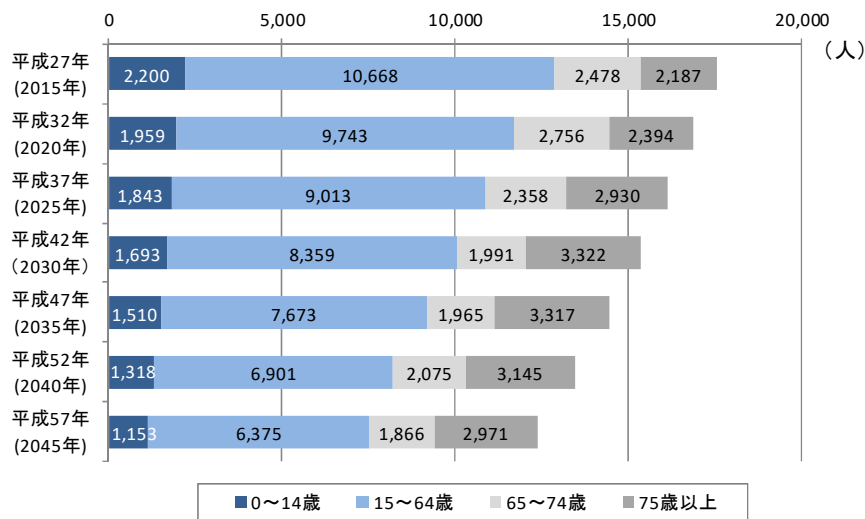


図 34 将来推計人口における年齢別構成（山口）

5 分析・考察

全市の人口を見ると、第5次西宮市総合計画の目標年次である平成40年（2028年）時点では478,624人（参考値）と現状から微減すると見込んでいます。男女別で見ると、男性全体では微減傾向、女性全体ではおおむね現状と変わらない数値となっていますが、主に子どもを生む年代である15歳から49歳の女性は20,000人程度減少することが予測されています。

一方、年齢階層別で見ると、平成27年時点での高齢化率は23.3%（国勢調査より。年齢不詳を除く。）ですが、平成37年（2025年）時点では26.0%、平成42年（2030年）には28.0%と4人に1人以上が高齢者（65歳以上）となることが予測されています。さらに、平成52年（2040年）には、高齢化率が34.8%と急激に上昇し、3人に1人が高齢者になることが予測されています。これは、平成27年時点で団塊ジュニア世代（昭和42年から昭和50年生まれ。40～44歳及び45～49歳男女）等の本市の人口構成で最も多い世代の大半が、平成52年（2040年）時点では65歳以上の高齢者世代に移行することによるものです。

次に、地域別の人口に着目します。まず、本庁北東地域は、近年、共同住宅の開発の影響もあり男女共に増加すると予測されています。高齢化率については、おおむね全市よりも低く推移します。

鳴尾地域・塩瀬地域・山口地域は、本市の中でも特に人口の減少幅が大きい地域ですが、特に15歳から49歳の女性の減少が著しくなっています。また、この3地域は全市よりも高齢化が進み、特に75歳以上人口の割合が、平成57年（2045年）には全市で約20%となるのに対して、約24～29%になると予測されています。